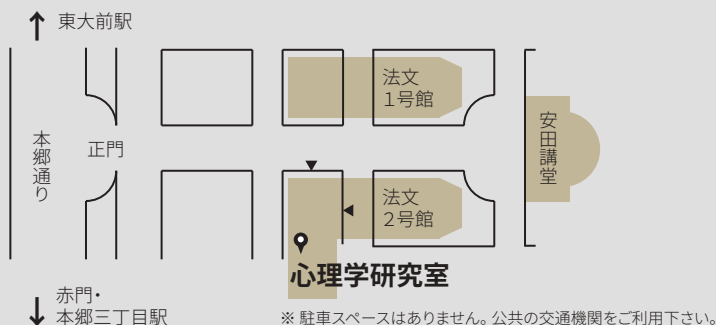


東京大学には、心理学の研究室が多数あります。当研究室は、心理学のあまたある分野の中でも、基礎心理学を志向した研究室です。当研究室の他に、文学部・人文社会系研究科には**社会心理学研究室**があります。教育学部・教育学研究科には**教育心理学研究室**や**臨床心理学研究室**が、駒場の教養学部・総合文化研究科には**認知行動科学研究室**があります。このほか、情報学環・医学部・工学部などでも、心理学に関する研究が行なわれています。詳しくは、それぞれのホームページ等をご覧ください。

アクセス

東京メトロ丸ノ内線・都営大江戸線 本郷三丁目駅より 徒歩12分
東京メトロ南北線 東大前駅より 徒歩12分
都営三田線 春日駅より 徒歩15分

東京大学本郷キャンパス 法文2号館 1階 2111号室



大学院入試(修士課程・博士課程)について

日程や募集要項については、人文社会系研究科のホームページ (<http://www.L.u-tokyo.ac.jp>) をご覧ください。大学院入試の手続きに関することは、人文社会系研究科学生支援チーム(大学院担当) (電話 03-5841-3710 / 電子メール in@L.u-tokyo.ac.jp) にお問い合わせください。例年、大学院入試説明会を開催しています。開催日程等は上記の人文社会系研究科ホームページでご確認ください。

前期課程(駒場)からの進学について

例年、駒場で前期課程学生を対象とした文学部ガイダンスが開催されています。詳しくは、文学部ホームページ (<http://www.L.u-tokyo.ac.jp>) などでご確認ください。

所蔵資料(書籍等)の利用を希望される方

東京大学附属図書館ホームページ (<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp>) で資料の所蔵の有無と利用方法をご確認下さい。資料の取り寄せ(複写・原本)については、ご自身の所属機関の図書館・室にご相談ください。

東京大学文学部・大学院人文社会系研究科
心理学研究室

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

tel 03-5841-3861 (平日10時~16時30分)

fax 03-5841-8969

e-mail shinri@L.u-tokyo.ac.jp

Department of Psychology

Graduate School of Humanities and Sociology
The University of Tokyo

7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo
113-0033 Japan

phone +81-3-5841-3861

fax +81-3-5841-8969

e-mail shinri@L.u-tokyo.ac.jp

心について 科学的に考えてみたこと ありますか？

東京大学文学部・大学院人文社会系研究科

心理学研究室



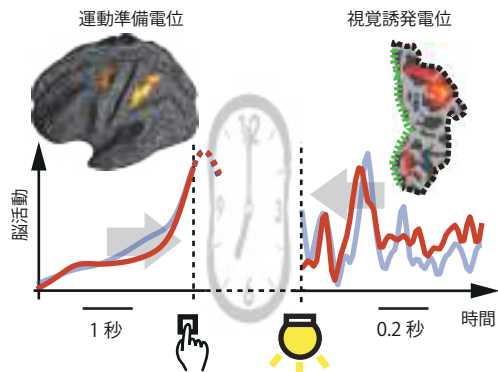
最近の研究成果から

脳の中でシフトする時間

運動とその結果を結びつける心理的な時間圧縮



スイッチを押してから部屋の明かりがつくまでに、一定の時間差がある場合があります。しかし、何回もスイッチを操作したことのある自分の部屋では、時間差はほとんど感じられなくなっています。この研究では、人間の脳活動を高い時間分解能で調べる脳磁図と、高い空間分解能で調べる機能的磁気共鳴画像法を用いて、この心理的な時間圧縮に対応する脳活動の変化を調べました。その結果、運動の準備に関わる脳活動(運動準備電位)のタイミングが遅れ、逆に、明かりの点灯によって誘発される脳活動(視覚誘発電位)のタイミングは早くなることを発見しました。

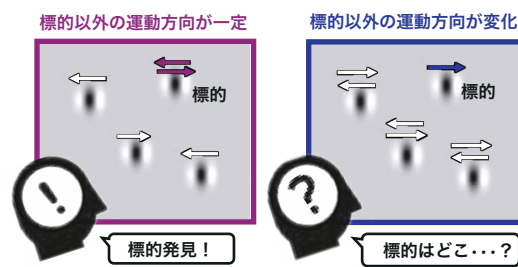


【今水寛(教授)、蔡暢(ATR研究員)、河内山隆紀(ATR研究員)、小川健二(北海道大学准教授)、田中宏和(北陸先端科学技術大学院大学准教授)による共同研究。NeuroImage 172 pp.654-662】

運動方向が変わらないことはわからない

運動方向の変化/非変化の知覚メカニズム

私たちの見る世界には運動する物体があふれています。そんな多様な信号には、ただ運動しているというだけでなく、手を振ったり駆けずり回ったりというように、運動方向が変化する瞬間があります。実際に、人は運動方向が変化していることをすぐに見つけることができます。ところが、運動方向が変化していない物体を見つけることは、視覚システムにとっても難しいことが明らかになりました。運動方向一定の物体の中でただ一つ運動方向の変化する標的を見つけるのは簡単なのに、その反対、つまり運動方向の変化する物体の中で運動方向一定の標的を見つけるには、非常に時間がかかってしまうのです。運動方向の変化/非変化を検査することには処理時間がかかり、いちどに一物体しか検査できない可能性があります。



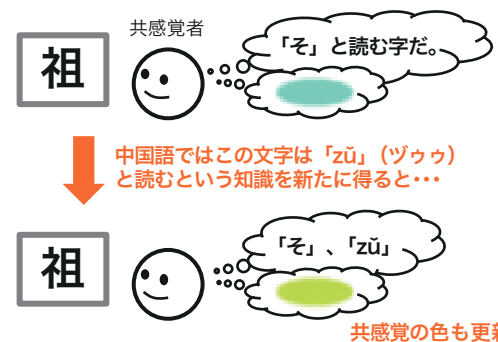
【仲田穂子(大学院生)、村上都也(教授)による研究。Vision Research, 2022, 108025】

文字に色を感じる共感覚のメカニズム

脳内の情報処理間の潜在的な結びつき



色字共感覚は『心』という文字は薄い水色などのように文字に特定の色を感じる認知特性で、世の中の一部の人(共感覚者)に見られます。色字共感覚に代表される共感覚は、一見つながりが無さそうに思える知覚・認知処理(例:文字と色の処理)の間に潜在的な結びつきがあることを示しており、人間の脳内情報処理の仕組みやその多様性を知る上でユニークで貴重な手がかりとして注目されています。この研究では、色字共感覚が言語の処理と密接に関係し、文字についての知識が更新されると、文字に感じる色もわずかながら変化することが明らかになりました。



【浅野倫子(准教授)、高橋聡一郎(学部生)、津城拓也(学部生)、横澤一彦(教授・当時)による共同研究。Philosophical Transactions of the Royal Society B 374:20180349】

顔で人を判断する傾向の個人差

顔から極端な印象を抱きやすい傾向の汎化性



人間は多かれ少なかれ顔から他人の特性(性格や能力)を判断しているとされます。このような顔による判断は正確なものではないにもかかわらず、雇用・裁判・選挙など、実社会での意思決定に影響を与えています。こうした不当な影響は「フェイスズム」(顔差別)などと呼ばれ、問題視されています。この研究では、参加者に多数の顔写真を見せ、7つの特性の印象を評価してもらったオンライン実験を行いました。その結果、あらゆる特性について顔から極端な判断を行う汎化的傾向が存在し、その傾向に安定した個人差があることが明らかになりました。つまり、顔からある特性(例:信頼性)を極端に評価しやすい人は、別の特性(例:有能性)も極端に評価しやすいことが分かりました。フェイスズムの解消を目指す取り組みにおいては、こうした個人差の存在を考慮することが必要だと考えられます。

種々の特性について顔から極端な印象を抱きやすい傾向



【鈴木敦命(准教授)、塚本早織(愛知学院大学講師)、高橋雄介(京都大学准教授)による共同研究。Royal Society Open Science 9: 2201172】

心のふしぎ。 脳の驚異。 人間という謎。

私たち東京大学心理学研究室は、1903年に設立された日本最初の心理学研究室です。100年以上にわたって心の科学研究にとり組み、世界最先端の研究成果をあげながら、日本の基礎心理学をリードしてきました。

人類最後の、そして最大のフロンティアとも言われる、心と脳。そのしくみを科学的に理解することは、現代のテクノロジーをもってしてもきわめて難しい課題です。永遠に解けない謎かも知れません。私たちはこれから根気よく、一步一步実証的に、心に挑みつけます。——100年後、1000年後の人類のために。

Research

知覚・注意・学習・言語・アクションプランニング・感情・対人認知などの人間の精神現象を、心理物理学的手法、脳科学的手法、認知科学的手法により研究しています。心理学にはさまざまな分野がありますが、当研究室はその中でも特に、知覚・認知・運動の過程を実証的実験によって明らかにする基礎研究に中心を置いています。

心理学研究室には教授・准教授・助教の教員のほか、研究員、大学院生、学部学生、研究生ら総勢70名ほどが所属し、それぞれ研究活動を行なっています。教授・准教授がそれぞれラボを主宰し、研究員や学生はそれぞれのラボに所属しています。

教員や研究員、大学院生は国内外の関係諸学会に所属して活動し、学会発表や研究論文などの形で研究成果を発信しています。当研究室の研究成果は高いインパクトファクターの国際論文誌に掲載され、多くの研究論文で引用されています。シンポジウム等で特別講演を依頼されることも多く、東京大学の他研究科や他大学・研究所とも交流があり、共同研究も活発に行なわれています。

研究

教育

心理学研究室には、毎年、駒場の教養学部前期課程から25名程度の学生が進学します。多くは文科III類からの進学ですが、理科からの進学も珍しくありません。

学部3・4年次には、演習や講義で幅広い知識を身につけるとともに、実験演習で数々の実験を行なってレポートを書き、実験機器の操作方法やデータ解析方法を学びます。最終年次には卒業論文研究に取り組みます。教員の指導のもとでオリジナルの実験研究を実施し、論文にまとめ、卒業論文発表会で成果発表を行ないます。

卒業生の多くは就職しますが、1〜2割ほどは大学院に進学し、当研究室もしくは学内外の他研究室の大学院生になっています。就職先はマスコミ・金融・商社・製造業・官公庁など、きわめて多彩です。

大学院教育では、学内外の研究設備を活用する機会や、国内外の研究者との研究交流の機会を促進し、指導体制の充実を図っています。修士(心理学)、博士(心理学)の学位を得て、研究者や大学教員として活躍しています。

Education